



-発行-
秋田県南秋田郡大湯村字南2-2
秋田県立大学生物資源科学部
アグリビジネス学科
TEL 0185-45-2026(代)
印刷: (株)八郎湯印刷
TEL 018-875-4005

アグリビジネス学科
14年間の思い出から

アグリビジネス学科 鶴川 洋樹



アグリビジネス学科同窓生の皆さんにはお元気で活躍のことと思います。私は2023年3月で定年退職となりますこと、今号に執筆の機会をいただきました。大湯キャンパスでの勤務は14年間、この間、同窓生や学内外関係者の皆さまに大変お世話になり、退職を迎えることができることに厚く御礼を申し上げます。ここでは14年間の思い出から教育に関わる出来事を書いてみました。

2年生の「農業経営学」は50名程度、3年生になるとプロジェクト演習で5〜9名、4年生は卒業研究で卒業ゼミ+個別指導になります。3年生になると文字通りの少人数教育で学生一人一人の個性をみながら、同じプロジェクトの教員と相談し、学生対応をしてきました。学生の個性は各自の違に加えて、年次による違いなどもあり、14年間を振り返ってみても、一人として同じ個性はないものと感じ入ります。翻って、1〜2年生にもそれぞれの個性があったのに、その対応ができていたのかと反省しています。

卒業研究は学部教育のハイライトですが、この時期の学生は、就活と卒業という人生の2大チャレンジに立ち向かい、相当なストレスだと思います。私が担当してきた政策・経営マネジメントプロジェクト(農業政策研究プロジェクト)の卒業研究では、農家やJAなどでの現地調査がほぼ必須で、多くの場合、教員が同行します。その道すがらの学生との会話から様々な情報が得られました。就活を優先しつつも、卒業が気になり、早く現地調査に行きたい、というのが共通した思いのようでした。



政経プロ夏季合宿@土田牧場 (2017年)

私が担当した卒業のテーマは農業経営に関するものが中心でしたが、時々、専門外の分野を対象とする卒業を担当することもありました。その場合、学生と一緒に一から文献勉強するところから始まるので大変でしたが、自らの研究では行くことのない現地調査に同行し、知見の広がりを実感しました。政経プロでは、卒業の原稿を3回提出することがルールになっていきます。12月末に下書き原稿、1月末に成績評価

12期 先進作物生産技術開発プロジェクト
落合 駿介

12期生の落合駿介と申します。在学当時、特に目立ったことをした覚えがない私ですが、このような紙面の機会をいただきましたので、近況報告をさせていただきます。卒業後は、片倉コープアグリ

という肥料会社で働いています。そして、秋田事業所販売課の配属となり、秋田市茨島の事務所から、営業で走り回っています。肥料についてはほぼ無知な状況で業界に飛び込んだ私でしたが、なんとかしがみついて働いている状況です。肥料業界にも諸先輩方がいますが、土壌分野や化学分野がほとんどで、アグリビジネス学科からも肥料業界に来る人が増えれば嬉しいなと個人的に思うところです。業務内容は、基本的に肥料の販売ですが、新しい肥料の開発や肥料試験も行います。秋から冬にかけては、来年の肥料注文の時期で、肥料相談の業務で

同窓生からの近況報告
今回は作物プロと基盤プロの卒業生に近況報告をしていただきました。

11期 次世代農業基盤創成プロジェクト
小貫 将宏

11期生の小貫将宏と申します。この度、同窓新聞に執筆させて頂く機会を頂戴致しまして、誠にありがとうございます。私は、大学で次世代農業基盤創成プロジェクト(旧生産環境プロジェクト)に

所属しておりました。私が3年生の時、現在のプロジェクト名に変更されたため、変更後初の卒業生となります。卒業後は、建設コンサルタント会社へ就職しました。初めて実家から飛び出しましたが、社会生活もあつという間に3年目となり、一人暮らしに期待と不安を抱いていたあの頃が非常に懐かしく感じます。会社では農政局や県・市が発注する農業土木関連の公共事業を受注し、日々業務にあたっております。私が担当した業務の中で最も印象に残っているのがダムや農業用水路の機能診断業務です。この業務は、農業を行うために欠かすこと

ができないダムや水路等を対象に、劣化状況や、必要とされる機能が十分に保持されているのか等を調査するものです。対象となった水路は、険しい山間部を流れており、その調査はまるで冒険をしているかのようでした。非常に大変な業務ではありましたが、農業施設が適切な状態で使用されることで、農家の方々が安心して営農を行うことができ、それが日本の食を支えていくことに繋がると考えると非常にやりがいを感じました。これからも、様々な仕事を通して農家の方々や日本の農業を守っていききたいと思っています。

お知らせ - 拡散のお願い -
アグリビジネス学科同窓新聞は第4号からはWeb掲載のみとなっています。同窓の仲間たちに「同窓新聞をWebで閲覧すること」を拡散してください。
アクセス方法「秋田県立大学HP→アグリビジネス学科HP→アグリビジネス学科運営ページ→キャリア・就職→同窓新聞」。
なお、印刷された同窓新聞の配達を希望される方は、kanda@akita-pu.ac.jpまでご連絡ください。
(次号は令和6(2024)年1月頃にWeb公開予定です)

各プロジェクトの近況



先進作物生産技術開発プロジェクト (旧大規模農業経営プロジェクト)

作物プロは、露崎先生、永澤先生、山本に加え、アグリイノベーション教育研究センターの西村先生、保田先生の5名の教員の下、大学院2年生1名、学部4年生9名、3年生6名が研究や実習に取り組んでいます。今年度は超省力農業として、ドローンの水稲直播にチャレンジし、一筋縄ではいかない難しさを実感するとともに、3年生の実習ではロボットトラクタに乗り込み、全くハンドルやレバーに触れない自動運転を体験しました。地域農業研修では、12月に大館市の農業法人「アグリ川田」の川田将平社長から、農業法人の経営や社員教育の試行錯誤について、大変

楽しくお話を聞きました。また、東光鉄工のUAV事業部を訪ねて、様々なドローンに関する知識を深めました。研修の最後に、北秋田市の伊勢堂遺跡縄文館を訪ね、貴重な世界遺産から出土した土器や土偶を見て、古代秋田に想いを馳せました。北東北・北海道とその南の地域では、土偶の様式など文化が全く異なるそうです。みなさんの心ふるさと・大潟村も有機農業の最先端地域として生まれ変わり、独自の発展を遂げる日が来るかもしれません。たまには遊びに来て、自分の目で確かめてみてはいかがでしょうか？

山本 聡史 記



先進園芸技術開発プロジェクト (旧園芸作経営プロジェクト)

特任助教の梅林利弘です。今年度は私が担当致します。2021年6月に大潟キャンパスに着任してから早1年半近く経ち、今年度も肌寒くなり、冬の到来を感じております。さて、今年度の園芸プロジェクトは、教員は昨年と同じメンバーの5名、大学院生(修士)1名、学部4年生7名、3年生7名体制で取り組んでいます。昨年度に引き続きコロナ禍で大変でしたが、園芸学会も現地開催(山形大学)され、松風祭も一般公開で開催されたりと、徐々にコロナによる活動制限も緩和されてきたのではないかと感じています。来年度はコロナのことを忘れず、くらしい良い年にしたいです。

梅林 利弘 記



家畜資源利用推進プロジェクト (旧家畜資源循環農業経営プロジェクト)

今年度は横尾が担当します。まず皆様にお伝えしなくてはいけないこととしては、すでにご存じの方も多いかと思いますが、畜産実習で皆さんも利用した思いの牛舎が、漏電が原因と思われる火災のため焼失してしまいました。2021年度からスマート畜産の教育研究の拠点として動き出した矢先の出来事でした。放牧管理の牛たちが、牛舎内で管理していた牛たちは残念なことになってしまいました。この間、同窓生の皆さんからは多くの励ましの言葉をいただき、大変感謝申し上げます。現在は、同窓生の皆さんからいただいた義援金も活用しながら、復旧を進めているところで、今年度中には新しい牛舎が完成する予定です。完全復旧にはもう少し時間が必要ですが、お近くにお越しの際はぜひ新牛舎を見に来てくださいます。また、教員構成にも変更がありました。4年間お世話になった伊藤謙先生が2022年3月に岩手医科大学へ転出し、現在は教員3名体制(横尾、渡邊、佐藤)で学生指導にあたっています。来年度には、新しい先生が加わる予定です。紹介したいと思えます。

横尾 正樹 記



次世代農業基盤創成プロジェクト (旧生産環境プロジェクト)

今年度の次世代農業基盤創成プロジェクトは、増本隆夫教授、近藤正准教授、永吉の3名体制で運営しております。また、増本教授は昨年度から引き続き学科長として、学科全体の運営にもご尽力されている状況です。現在、プロジェクトに所属する学部生および院生は、3年生9名、4年生5名、博士前期1年生1名、博士前期2年生1名、博士後期2年生1名(社会人)、研究生1名の大部分です。卒業・修了予定の4年生5名と修士2年生1名、研究生1名は、全員進路が決まりました。内訳は、大学院進学2名(本学2名)、国家公務員3名、地方公務員2名です。さて、本プロジェクトのメンバーが関係する大きな

永吉 武志 記



地域ビジネス革新プロジェクト (旧アグリビジネスマネジメントプロジェクト)

今年度は末永がプロジェクト関連の近況報告を担当することになりました。よろしくお願ひします。地域ビジネス革新プロジェクトは3年生が6名、4年生が6名の合計12名、教員は今年度4月より農村社会学分野の重岡徹教授が新たに加わり4名体制(重岡・酒井・林・末永)となりました。今年度の3年生のプロジェクト活動では、県の農協組織の集荷施設の役割や、レストランやワークショップなど体験型交流事業について調査を行ったほか、夏季研修では山形県の河北町の農村振興、地域活性化の取

末永 千絵 記



政策・経営マネジメントプロジェクト (旧農業政策研究プロジェクト)

今年度は、鶴川先生、岡田先生、高津先生、赤堀先生、私(上田)の5名の教員体制でスタートしました。10月に赤堀先生が北海道大学へ転出されています。また、学生は3年生8名、4年生10名、大学院生2名の大部分です。さて、嬉しい報告です。本学大学院を令和3年度に修了した稲餅瞬さん(11期生)の研究成果が、東北農業経済学会で学会賞(学会誌賞)を受賞しました。稲餅さんは、タマネギ産地化を推進している大潟村における事例経営調査に取り組み、独自の調査データで生産動向と経営対応の実態を詳細に分析しており、その

上田 賢悦 記

牛舎火災で焼死した牛の慰霊祭が行われました

令和4年1月に発生した牛舎火災により焼死した牛の慰霊祭が3月に執り行われました。教職員、学生など約40人が出席し、感謝と哀悼の祈りを捧げました。本火災を受け、多くの方々から義援金をいただきました。皆様の温かいご支援と励みに、改めてこの場を借りて心より感謝申し上げます。



慰霊祭と義援金活動について
本学HPをご覧ください。

新任教員紹介

この1年間に大潟キャンパスに着任された先生の紹介欄です。

重岡 徹 先生

2022年4月から荒樋豊先生の後任として着任した重岡徹と申します。地域ビジネス革新プロジェクトに所属し、農村社会学などを担当しています。専門は農村社会学、農村計画論で、農村文化の保全や農村協働力の再生また地域自主防災力の構築など地域活性化の道筋について研究を行っています。本学では、社会学の切り口から秋田県の民俗・風土に根差したグリーンツーリズムや住民参加の地域づくりによるふるさと再生の実践に取り組みたいと考えています。